



国立大学法人 山口大学

農学部

Faculty of Agriculture, Yamaguchi University

生物資源環境科学科

Biological and Environmental Sciences

応用動物生態学研究分野

Applied Animal Ecology

細井栄嗣 (hosoi@yamaguchi-u.ac.jp)



応用動物生態学とは動物の生態を研究し、得られた知識をその動物や環境を保護・管理するために応用していこうとする分野です。遺伝的多様性から食物の栄養価、行動圏の広さや生息地の利用形態まで幅広い研究を行っています。近年は野生動物による農林業被害が全国的問題となっており、ここ山口でもいかにして人と野生動物の共存を図るかが大きな課題です。研究対象は随時変化しますが、現在はシカ、イノシシ、クマ、ヤマネなどです。

研究テーマ

1. 西日本の二ホンジカの系統関係
2. 山口県西部における二ホンジカの脂肪蓄積様式
3. イノシシの餌資源量と個体群動態の関係 など



クマは害獣であるとともに希少動物でもあるため、保全の努力が必要です。山口、広島、島根の3県共同で保護・管理が行われています。当研究室では山口県内で捕獲されたクマについて計測、齢査定、食性研究を行う

とともに、クマの餌となる植物の生産量を予測し、クマの出没頻度との関連を調べています。

(画像上：ヤマネ用巣箱に現れた個体。自動撮影です。人がいる時はクマは姿を見せません。画像下：クマの爪跡)



シカとイノシシは山口県における代表的な農林業の害獣です。県下全域に生息するイノシシに対して、シカは県西部に分布が限られていたのが、近年分布を拡大し、一部は島根県に進出していることが遺伝子の研究から明らかになってきました。宮島ではシカの過密化が問題であり、植生の破壊が進んでいます。

(画像はどちらも山口県農林総合技術センター提供)



ヤマネと同所的に生息するヒメネズミは、同じ巣箱を利用することからも、ヤマネと競争関係にあるといえますが、赤ちゃんはヤマネの餌になっているとも言われ、その生態を明らかにすることはヤマネの保護の観点からも重要です。ヒメネズミと近縁なアカネズミも含めて研究を進めています。

ヤマネは保護が必要な希少動物です。国の天然記念物であるとともに、山口県レッドリスト掲載種でもあり、その生態はまだ謎に包まれています。個体数が非常に少ないと考えられる山口県のヤマネの生態を解明し、保護につなげるための研究を行っています。(画像は巣箱に繁殖用の巣材である杉の樹皮を運びこむメスのヤマネと巣箱内の様子。右下は別の巣箱に現れ、その後破壊して中のヒメネズミ親子を襲ったテン)



山口県には野生化したヤギが住む無人島があります。天敵がおらず人による捕獲もない環境で、餌不足により植生の破壊が進んでいます。一見食べられるものがほとんどないように見えるこの島でヤギたちがどうやって生きているのか、研究をスタートさせました。